

アマチュアボクシング協会

昭和 57 年(1982 年)創立

【アマチュアボクシングの由来】

私たち「アマチュアボクシング協会」が、この地・茅ヶ崎市に産声を上げて 26 年間（1982 年創立）が過ぎたが、ボクシング界全体の歴史を考えれば、まだまだ助走段階に過ぎません。

ボクシング競技の起源は 3500 年前にもさかのぼるとされており、古代ギリシャのオリンピックでもその記録が残されています。

そのボクシング競技が他のスポーツ競技のようにメジャーになったのは、19 世紀にアメリカ国民の間でボクシングが人気となり、それがヨーロッパに渡りヨーロッパでも広く人気を集め、20 世紀のはじめの第 3 回オリンピック・セントルイス大会（1904 年）で正式な近代オリンピック競技種目となりました。

オリンピック競技の中での「ボクシング競技の特徴」は、男子のみの競技であること、また、レスリングや柔道のように体重別での競技が続けられていることですが、ボクシングというプロとアマとの最大の違いは、アマチュアはヘッドガードを着用し、厳格なルールを適用している点です。

【日本のアマチュアボクシング】

一方、日本での歴史は、現在、日本のア

マチュアボクシングを統括して、国際的に日本を代表している「社団法人・日本アマチュアボクシング連盟」の前身である「全日本アマチュア拳闘連盟」が発会をしたのは、大正 15 年（1925 年）の 7 月 14 日のことであります。

国内ではそれ以前からボクシング競技が行われていましたが、学生ボクシングを含め、現在の日本のアマチュアボクシングの礎が誕生した瞬間でもありました。

ようやく基礎を固めたアマチュア拳闘連盟は、いよいよ躍進の時代へと入ります。第 9 回アムステルダムオリンピック大会（1928 年）から始まり、続く第 10 回ロサンゼルス大会、第 11 回ベルリン大会へと連続して数々の選手を参加させました。

その後戦争で中断されたが、戦後の第 15 回ヘルシンキ大会から再び参加をしております。

また、ここで特筆すべきは、「全日本アマチュア拳闘連盟」の発足の 3 年前の大正 12 年（1922 年）に、当時のボクシング評論家として活躍していた、川島清氏が経営する「第一拳闘倶楽部」がここ茅ヶ崎市に建設されていることです。ここは、後に「ピストン堀口道場」に譲渡され、現在に至っており、茅ヶ崎市がボクシングの聖地としての歴史を刻んでいる証でもあります。

【茅ヶ崎のボクシング】

当協会がある茅ヶ崎におけるボクシングの歴史はこれだけではありません。全日本社会人ライト級チャンピオンの青木英夫氏（当協会現理事長）をはじめ、国体・インターハイを制した堀口昌彰氏（堀口道場現会長）や昭和 59 年（1984 年）に茅ヶ崎市で開催された、神奈川県社会人選手権ライト・ウェルター級で優勝した荒井眞一氏など、その他にも多くの優秀な選手を輩出しています。

藤間明男氏（前県会議員）が会長に就任してからの 10 数年間を振り返ると、もっとも思い出が深いのは平成 10 年（1998 年）に神奈川県で開催された「かながわゆめ国体」において、茅ヶ崎市が「アマチュアボクシング競技」の開催地に選ばれたことで、このことは当協会の活動に大きな励みとなりました。

ブレ国体大会を含め、当時の市役所のご高配により、念願だったアルミ製のリング購入も総合体育館で実現し、そのリングのおかげで活躍の幅が広がり、現在でも感謝の念に絶えません。

これからの課題は、毎年 1 回高校生を中心に対象とした「市民体育大会ボクシング競技会」と年数回開催している「市民ボクシング教室」の充実を図ること、また、次回のオリンピックから女性選手の導入が検討されているボクシング界全体の動向を踏まえ、女性や小中学生の健康管理・体力向上にも視点を置き、「観るスポーツ」から、楽しみながら「参加するスポーツ」へと変革できるよう取り組むことです。

最後になりましたが、協会設立より多大なご尽力をいただいた、真壁洋二氏（故人）や加藤勇氏・伊藤留治氏等の先輩諸兄に深く感謝を申し上げます。



（総合体育館にて協会主催事業のボクシング教室）